

1月例会は韓国映画『野球少女』

1月25日(木)午後2時～、午後4時20分～、午後6時40分～

◇新年のあいさつ

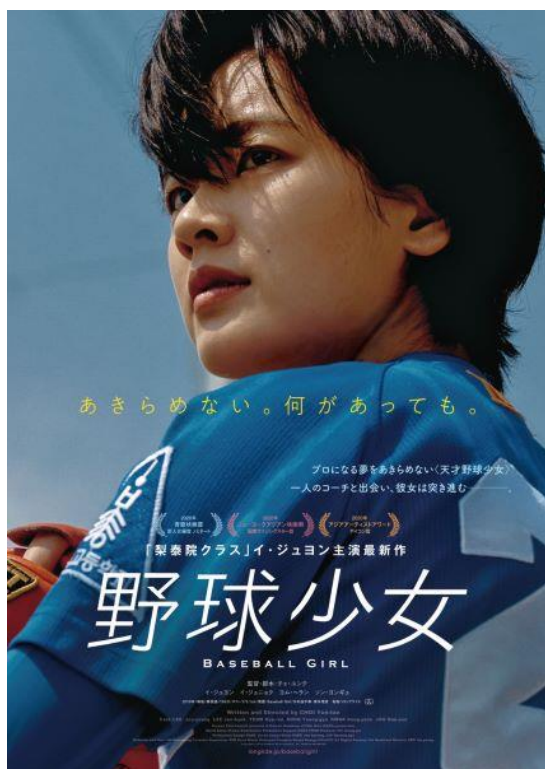
あけまして おめでとうございます

楽しいはずのお正月に突然入った夕方の能登地方の地震のニュース。地震の揺れ、津波、家屋の倒壊、火事とまるで阪神淡路大震災と東日本大震災を思わせるような映像が流れ、心がざわざわとしました。亡くなった方をはじめ、被災された方に心からの哀悼をおくります。寒い中、まだ大きな余震が続き、断水・停電と心休まることはないでしょうが、一日も早い復旧を願わずにはいられません。

さて、みなさんは、どのようなお正月をお迎えましたか。『窓際のトットちゃん』、『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』、『君たちはどう生きるか』は、まだイオンシネマ加古川で上映されています。お時間ありましたら是非、ご覧ください。

12月9日には、運営委員会忘年会を開きました。運営委員4名、明石シネマクラブから3名、映画センターから1名の参加で行い、映画話で盛り上がりました。

加古川シネマクラブは、2002年5月に設立して22年を迎えました。今年も「良質な映画上映」をしていくため、一緒に会員を増やし、ともに笑い・涙し、映画を楽しみましょう。本年もよろしくお祈りします。



例会のお知らせ

■名称／第127回例会『野球少女』

■日時／2024年1月25日(木)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／『野球少女』

■監督・脚本／チェ・ユンテ

■出演／イ・ジュヨン、イ・ジュニョク、ヨム・ヘラン、ソン・ヨンギョ

■データ／2021年、韓国、105分

■ジャンル／ヒューマンドラマ、スポーツ

■ストーリー・解説／投手として最高球速134kmの球を投げ天才野球少女と呼ばれてきたスイン(イ・ジュヨン)は、高校卒業目前にプロ野球選手になることを目標に掲げていた。しかし、女子という理由でトライアウトを受けさせてもらえず、プロからラブコールを受けたのはリトルリーグ時代からのチームメイト、ジョンホ(クァク・ドンヨン)だった。周囲からは諦めるよう忠告されてしまいが、それでもスインは女性初のプロ野球選手の夢を諦めず努力を重ねていく。そんな時、新しくスインの前に新任のコーチ、ジンテ(イ・ジュニク)が現れる。集められたスタッフは経験の浅い女性ばかり。始めはバラバラのチームだったが…。

日本映画で女性投手の活躍を描いたものとして、水島新司の人気漫画を加藤彰監督、木之内みどり主演の『野球狂の詩』を思い起こす人もいるでしょう。作品としての出来栄はともかく、水島新司が描いたストーリーや登場人物のイメージを守っていて、当時の野球少年をワクワクさせる名作だったと思います。

『野球少女』は、水島作品と比べると、漫画感は少なく、体格や体力が必要ものをいう男性社会の中でもがいて頑張る女性の姿を描いていたようで、いろいろなところで、ちょっと考えさせられるヒューマンストーリーといえるでしょう。

全国映連映画大学 in 東京参加報告第2弾

全国映連(映画鑑賞団体全国連絡会議)第50回映画大学が2023年9月22日から3日間、東京で開催され、加古川シネマクラブから2名が参加しました。前号では「芳」さんの報告を掲載しましたが、今回は「せん」さんの報告を以下に掲載します。

今回の映画大学テーマは「平和・人権・ジェンダー」で、日本国民救済会(日本唯一の人権団体)との共催でした。テーマに沿って登壇した講師陣はそれぞれ分かりやすく、話に引き込まれました。

講師陣は、①サヘル・ローズ(俳優・タレント)、②金聖雄(映画監督)、③浜田敬子(ジャーナリスト)、④瀬々久(映画監督)⑤斉藤綾子(映画研究者・大学教授)⑥梶原阿貴(俳優・脚本家・大学非常勤講師)⑦川和田真恵(映画監督)。映画上映は金聖雄監督『オレの記念日』。私が楽しかった講義は、⑥梶原阿貴さんですね。映画『櫻の園』の俳優デビュー作も見えてなかったし、全然知らない俳優さんでしたが、30歳を境に女優の壁を感じ、脚本なら書けるのではと、山あり谷ありのエピソードも楽しく、ホロ悲しく。2022 高橋伴明監督『夜明けまでバス停』ではオリジナル脚本で映画化にこぎつけ、努力と負けん気とお茶目さが魅力的でした。この脚本は2020年渋谷ホームレス殺人事件を題材にしています。梶原さんはあのバス停の近所に住んでおられたそうで、孤立、貧困の「自己責任論」に怒りを覚えたし、コロナ過の東京の姿を映像として残しておきたい。「彼女は私だ」運動、シスターフード；女性の連帯も描きたかったそうです。壇上ではキビキビと話して大きく見えたのですが、講義のあと談笑した時はあまりの笑顔のかわいさに「やはり女優さんだ！」心で大きくうなずきました。今、振り返ると3日間7講義はやはり疲れしました。頭がいっぱいいっぱいで。でも、知らなかったを知る、講師の話に笑う、泣く、考え込む。でも心は満ちて、今回参加できたこと、感謝、感謝です。

さて2024年7月は「映画フェスティバル in 沖縄」です！名護市のやんばるシネマさんです。楽しみです！（せん）

前回の例会報告

11月15日(水)の11月例会では、挫折した天才調香師が人生崖っぷちの運転手との交流などをとおして再生していく姿を、ディオールやエルメスの関係者の協力を得て、描いたヒューマンドラマ『パリの調香師』を鑑賞しました。

感想41名。「久しぶりにフランスの香りがあっていい作品でした」、「親子の関係がいいなと思いました」、「人見知りの主人公 よくわかります」、「調香師という今ま

で知らなかった世界が広がってとても素敵な映画でした」、「内容を読んでなくて、まさか運転手さんが調香師になるなんて。とても楽しかった」、「さすがにしゃれたフランス映画。主演の女優、誰かに似ていると思ったら、懐かしのジャンヌモローだった。映画の終わり方、突然でこれもフランス風?」、「主人公が好きだったせつげんのおい 主人公が作った香水の香りを知りたくなった」、「人生の転機はやっぱり損得なしの行動からよい方に向かっていくというほのぼのとした物語でよかったです」、「相手を思いやるところがとてもよかったです」、「日常からはなれてよい時間でした」

参加会員85名(新入会1名)、明石シネマクラブから14名参加。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/第81回例会『走れロム』(2019年、ベトナム、79分)

■監督・脚本/チャン・タン・フイ

■出演者/チャン・アン・コア、アン・トゥー・ウィルソン

■ジャンル/ヒューマンドラマ

■解説/ベトナム・サイゴンの路地裏を舞台に、孤児の少年が夢をかなえるために巨額の当選金が手に入る違法宝くじに挑む姿を描いたベトナム映画。貧しいとはどういうことかを考えさせられる。

■日時/2月15日(木)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/

※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 122人(11月15日現在)

